



## はじめに

人と自然の博物館（ひとはく）は、2017年10月に開館から25年目を迎えることができました。当年度においても、調査・研究や生涯学習事業をはじめ、地域活性化活動などに、継続的にますます精力的に取り組んでまいりました。

調査・研究活動の一環としては、兵庫県篠山市内で造成が進んでいる川代1号トンネルの岩砕より角竜類の頭骨の一部や竜脚類の歯、ワニ類の歯などの化石が複数発見され、丹波市山南町上滝地内の露頭より新たにワニ類の鱗板骨や貝類の化石が発見されるなど、本格的な発掘調査に向けた事業を推進してまいりました。資料・展示については、開館25周年を記念し、国際共同特別展示・研究成果報告展「最古の石器とハンドアックス—デザインが始まり」の開催や、「ひとはく研究員いちおしの25選」と題して18件の展示を年間通じて実施するなど、精力的に企画展を開催したほか、自然史系博物館8館と連携した「自然史レガシー継承・発信事業」の「日本酒の自然誌」において自然史資料の重要性を発信する展示を展開しました。また、頌栄短期大学の植物標本について、技術革新を図ることにより登録・整理作業を、より推進しました。さらに、教育普及活動の一環として、県政150周年および、ひとはくと県立大学自然・環境科学研究所の25周年を記念したフォーラム「日本の恐竜時代を探る！」を開催したほか、国際花と緑の博覧会記念協会と台湾台北市立動物園とともに「高校生のための生き物調査他県ツアーin台湾」を実施しました。

兵庫県では、少子高齢化の進展や人口減少などの構造的な課題に対応し、将来にわたり活力ある地域社会を構築していくため、地域創生に向けた取組みを推進しています。その中で、私たちの博物館の果たす役割はますます重要になってきます。地域の自然や文化に関する研究活動や資料の収集・蓄積はもちろんのこと、それらを活用した環境学習や新たな地域活性化を支援する組織として、今後も活動を推進していく必要があります。

開館から25年を迎えるに至る過程で、博物館を様々な面で支えて頂いた皆様に心からお礼申し上げますとともに、これから成熟した博物館として社会に貢献し続けられるよう、厳正なご批判と、有益なご指導をいただければと期待いたします。

兵庫県立人と自然の博物館  
館長 中瀬 勲